

お年寄りの万引き防止

26年度都振連
調査報告書

アンケート調査概要
（一面に関連記事）

《視点1》「流通業務関係者」と「親が高齢者」の比較

△1▽万引き件数の動向の認識

回答順位	1位	2位	3位	4位
流通	万引きがくせ・習慣になっている (55.0%)	生活の孤独、寂しさの気分解消 (51.0%)	認知症など脳や神経の病気 (40.0%)	貧しくて生活に困っている (34.0%)
親が高齢者	認知症など脳や神経の病気 (56.0%)	生活の孤独、寂しさの気分解消 (55.0%)	貧しくて生活に困っている (46.0%)	万引きがくせ・習慣になっている (37.0%)

【万引き理由の意識】

◆「高齢者が増加している」という現状の認知はともに高い
△2▽万引き理由の意識
【表参照】

◆「生活の孤独、寂しさの気分解消」はともに5割を超えて高い
◆流通は「くせ・習慣」の回答が高い（親が高齢者と18ポイント差）

◆親が高齢者では「脳や神経の病気」（流通と16ポイント差）、「貧しくて生活に困っている」（同12ポイント差）の回答が高い

△3▽万引き防止に役割が必要なもの意識
◆流通は「店が行う防止策」の回答が断トツ／親が高齢者では「店が行う防止策」と「仲間・友だち」の回答が同レベル

《視点2》流通業務関係者の「商店経営・販売」と「小売業社員」の比較
相違点

△1▽自店の万引き被害の状況と把握
◆商店経営・販売は「高齢者の万引きはない」

（小売業社員と28ポイント差）、「被害額はなし」（同28ポイント差）の回答が小売業社員より高い

◆小売業社員では「万引き頻度わからない」（商店経営・販売と28ポイント差）、「店全体の被害額不明」（同38ポイント差）の回答が多い。

△2▽自店の万引き対策
◆「商店経営・販売」は「必要ない」の回答も多い。「必要」の回答が多い。

①「自分の店は今後、高齢者の万引き対策が必要か」の回答比較
「必要ない」のでしていないの回答：商店経営・販売 38.0% / 小売業社員 4.0%

「しっかりしている」
「多少している」：商店経営・販売 30.0% / 小売業社員 34.0%

②「自分の店の高齢者の万引き対策」実施の回答比較
「必要」「まあ必要」の回答：商店経営・販売 44.0% / 小売業社員 70.0%

「必要ない」「あまり必要ない」：商店経営・販売 32.0% / 小売業社員 6.0%

△3▽店のタイプと高齢者の万引き件数の関係性
◆「セルフ型のほうが多い」の回答は多いが、「小売業社員」では「どちらともいえない」の回答も多い。

・「高齢者の万引き件数は店のタイプによる違いがあるか」の回答比較
「セルフ型のほうが多い」：やや多い

：商店経営・販売 84.0% / 小売業社員 48.0%

「どちらともいえない」：商店経営・販売 18.0% / 小売業社員 46.0%

◆「必要ない」「あまり必要ない」：商店経営・販売 32.0% / 小売業社員 6.0%

△3▽店のタイプと高齢者の万引き件数の関係性
◆「セルフ型のほうが多い」の回答は多いが、「小売業社員」では「どちらともいえない」の回答も多い。

・「高齢者の万引き件数は店のタイプによる違いがあるか」の回答比較
「セルフ型のほうが多い」：やや多い

：商店経営・販売 84.0% / 小売業社員 48.0%

「どちらともいえない」：商店経営・販売 18.0% / 小売業社員 46.0%

◆「必要ない」「あまり必要ない」：商店経営・販売 32.0% / 小売業社員 6.0%

△3▽店のタイプと高齢者の万引き件数の関係性
◆「セルフ型のほうが多い」の回答は多いが、「小売業社員」では「どちらともいえない」の回答も多い。

・「高齢者の万引き件数は店のタイプによる違いがあるか」の回答比較
「セルフ型のほうが多い」：やや多い

：商店経営・販売 84.0% / 小売業社員 48.0%

「どちらともいえない」：商店経営・販売 18.0% / 小売業社員 46.0%

◆「必要ない」「あまり必要ない」：商店経営・販売 32.0% / 小売業社員 6.0%